

# 常総市 総合計画

後期基本計画

The comprehensive programs in JOSO

本市は首都近郊にありながら、水と緑に囲まれ、希少な動植物の生息する美しいまちです。誰もが住みたくなるまち『じょうそう』をめざし、まちの活力、将来性、安全安心、心豊かな暮らしの実現に向けて6つの分野における重点施策を掲げています。



●子育て支援センター  
子育て支援センターでは、小学校就学前の在宅の親子やこれから親になる人を対象に、子育てについての情報を交換したり、親子が一緒に遊んだり気軽に交流できる場所を提供しています。

健やかで幸福を  
分かち合うまちづくり

〔保健・医療・福祉の充実〕



医療・福祉





## 市民が相互に支え合い 健康に安心して暮らせる制度を進めています

少子高齢化や核家族化が進み、結婚・出産に対する意識も変化し続けている現代社会において、人々の暮らしはますます多様化しています。本市では赤ちゃんからお年寄りまで、あらゆる立場のすべての市民が等しく安らぎのある暮らしを実感できるよう、保健、医療、福祉の充実をはかっています。

安心して子どもを産み育てるための母子保健、子育て世帯のニーズにこたえる保育環境の整備を進め、地域全体で子育

てを支援するまちを目指しています。一方で、本市の高齢者人口は全人口の27%（平成27年7月1日現在）を占め、特に75歳以上の増加が著しい状況です。高齢者の生活上の問題を解決していくために、地域と行政の協働による地域福祉力の強化にも努めています。

生活習慣病予防対策の推進、医療環境や緊急医療体制の充実など、誰もが健康で生きがいを持てるまちづくりを目指しています。



医療・福祉

健やかで幸福を分かち合うまちづくり



### ●在宅介護サービス

訪問介護サービスでは、ホームヘルパーが居宅を訪問し、食事や掃除などの生活援助をしています。



### ●バリアフリー環境

常総市役所の本庁舎はバリアフリー環境も充実しています。

①ヘルスアップ教室では、生活習慣病予防を目的に楽しく運動習慣を継続させるため実施しています。②疾病の早期発見のため行っている健康診断。③肩・腰・膝の痛みがある人などを対象に、理学療法士が体にあった運動方法を具体的にアドバイスしています。④きぬ医師会病院では中学生までを対象に、かぜや腹痛などの急性疾患をはじめ、さまざまな疾患に幅広く対応できる小児科外来を開設しています。





教育・文化

# 豊かな人間性を 育むまちづくり

[生涯学習の推進]



## ● 理数教育の強化

市では大学や博物館などとの連携や小学校教科担任制の導入による理数教育の強化に取り組んでいます。写真は絹西小学校の理科授業の様子。





## 学校教育や生涯学習を充実し、 次世代を担う青少年の育成と学習環境を整備

さまざまな資源を持つ本市のさらなる地域文化の向上を目指し、市民一人ひとりの豊かな人間性を育てていく環境を整えています。就学前教育や小学校教科担任制の導入による理数教育の強化、外国語教育の指導体制の充実などによる学力の向上を目指した学校教育の充実。「放課後子ども総合プラン」に沿った青少年育成事業など、家庭、学校、地域が連携して、明日を担う子どもたちを見守りながら育成していく環境づくりを進めてい

ます。

また市民の生涯を通じた学習活動を支えるためにさまざまな機会を提供し、自主的な学習活動を支援しています。スポーツ団体と連携したスポーツ活動の普及や、地域に根ざした芸術・文化活動の活発化を図るとともに、そうした事業への市民の参画、文化活動を通じた幅広い交流活動などを促進し、本市固有の伝統や歴史的文化遺産の保全と継承をしています。



豊かな人間性を育むまちづくり



●坂野家住宅  
郷土遺産の保全と継承にも取り組んでいます。



●水海道小学校の鼓笛隊  
鼓笛パレードは1960(昭和35)年から続く同小学校の伝統行事。毎年10月に開かれる市の文化祭で市街地をパレードします。

①市立図書館は小中学校と連携して児童生徒の読書活動の活発化を図り、市の読書文化の向上に取り組んでいます。②市では体育・保健体育科教育、運動部活動などを充実させ、心身ともに健康な児童生徒の育成に取り組んでいます。③長塚節文学賞の開催など、文化活動の充実や地域固有の文化イベントの情報発信にも力を入れています。④ハンドボール教室をはじめとする各種スポーツ教室ならびにスポーツイベントを通じて、誰もがスポーツに親しむ生涯スポーツ社会の実現に取り組んでいます。



# 安全で安らぎのある まちづくり

[生活環境の充実]



● AED 啓発普及活動

市では救急救命士の養成や救急医療機関との連携を強化するとともに、市民の普通救命講習会の開催などを通して地域全体の救護体制を構築しています。写真は自動体外式除細動器(AED)使用方法の啓発普及活動。





## 災害に強く安全なまち 自然と調和した安らぎを感じる暮らし

防災、防犯、事故を未然に防ぐための危機管理意識を高く持ち、市民が安心して暮らせるまちづくりを目指しています。2015（平成27）年9月の関東・東北豪雨や東日本大震災から学んだ災害時における初動・避難勧告など、行動規定の明確化と情報提供を徹底。総合的なハザードマップの整備や避難訓練、2015（平成27）年4月から運用開始した防災行政無線の有効利用を図るなど、常に災害に備える防災対策の強化を実現していきます。

消防・救急の充実については、常備消防および消防団の装備や体制の充実を図りながら、火災予防・防火意識を啓発。市民による応急救護など、大きな災害にも対応できる全市民的な救急体制の強化に努めます。交通安全施設の整備や道路交通環境の改善など、交通安全対策の充実を推進。廃棄物の減量化やリサイクルの普及、環境美化活動など、安全で自然と調和した生活環境が実感できるまちづくりを進めていきます。



防災対策

安全で安らぎのあるまちづくり



**交通安全キャンペーン**  
交通事故の減少を図るため、警察や交通安全団体などと連携し、さまざまな交通安全活動に取り組んでいます。



**防災無線室**  
市役所にある、防災無線室から防災行政情報が発信されます。

①2014（平成26）年11月に開庁した市役所の本庁舎は地上3階建て。延べ床面積4,200平方メートルで、震災を教訓に高い耐震性を確保し、ユニバーサルデザインを採用しました。太陽光発電や自然採光など環境に配慮し、1階に窓口部門を集め、幼児が遊べるキッズスペースや授乳室を設置するなど市民の要望に応えました。②今後は防災行政無線や防災情報メールの配信などを含め、全市民的な防災連絡網の整備の推進が必要です。③地域の治安を維持するためには、地域コミュニティ組織と連携した防犯パトロールの実施が不可欠です。写真は松の木安全会の防犯パトロール。





環境保全

# 潤いのある快適な まちづくり

[都市基盤の充実]

## ◆きぬ総合公園

健康な市民生活を支える自然豊かな公園。1年中スポーツが楽しめる。敷地内にきぬ温水プール、水海道総合体育館、きぬテニスコート、水海道球場、きぬサブグラウンドなどがあります。





## 自然との共存を考えた秩序ある整備をすすめ 快適な都市環境をつくっていきます

菅生沼や大生郷天満宮周辺など、本市には貴重な自然が多く残されており、河川池沼の水辺は生きものの生息空間として重要な役割を果たしています。これら水と緑の自然環境を守り育てるために、さまざまな環境保全活動にとりくみ、人と自然がともに栄えるまちづくりを推進しています。

2010(平成22)年3月には「常総市都市計画マスタープラン」を策定し、長期的な都市基盤の整備と都市づくりの指針を定め

ました。これに基づいて秩序ある整備をかりながら、都市計画事業や市街地整備事業を推進。子育て世代や高齢者対応を重視した市営住宅の改善や住環境を整備するなど、定住促進に効果的な住宅環境の整備も進めています。

2016(平成28)年度の圏央道の開通に伴い、常総インターチェンジ周辺地域整備事業を推進し、市の基幹産業である農業の六次産業化による産業用地の創出や雇用の促進を図ります。



潤いのある快適なまちづくり



### ● 通学路整備

通学路整備にも力を入れています。写真はすでに工事が終了した石下中学校(本石下)西側の歩道。



### ● ほたるの誘い

水海道あすなるの里では、ホタル観賞会を毎年7月に開催。ホタルは同施設の近くの小学校の児童が幼虫を飼育し、6月に放流しています。

①コハクチョウの飛来地で、野鳥観察などで人気の菅生沼。②若者や子育て世代、高齢者の居住ニーズに対応した市営住宅も整備されています。写真は八間堀団地(水海道橋本町)。③予約型乗り合いタクシー「ふれあい号」。移動手段を持たない市民のために2009(平成21)年10月にスタートしました。





# 豊かにのびる まちづくり

農業・商業・工業 [産業の振興]

## ●常総きぬ川花火大会

毎年8月末、鬼怒川河畔で開かれる花火大会。1949（昭和24）年、戦没者追悼と戦後復興を願って始めました。全国の花火競技会で賞を獲得した県内外の花火製造会社や、日本煙火芸術協会員らが参加し、職人たちの技術の粋を堪能できる大会となっています。







## 付加価値を生み出す産業で 魅力ある地方都市をアピールします

本市産業の基盤をなす農業の振興は重要な課題です。生産基盤の整備と農地の保全、担い手の育成と営農体制の整備を進めるとともに、ブランド戦略と連携した新たな販売戦略の展開を推進します。商業・工業においても新たな事業分野への取り組みなど、地域資源を最大限に活用しながら経営安定を促進していきます。

豊かな自然と歴史的価値の高い施設を有している本市は、県内でいち早く2003

(平成15)年にフィルムコミッションを組織化しました。映画・テレビ・コマーシャル撮影などの受け入れ態勢を整え、県内随一のロケ地として活動しています。豊かな自然や歴史的文化遺産など、さまざまな観光資源と首都圏から近い利便性を活かして、より多くの誘致を図ります。また「常総きぬ川花火大会」や「祇園まつり」など、全国的にも評価されている各種イベントの体制を強化し、観光の振興を図っていきます。



豊かにのびるまちづくり



### ●水海道祇園祭

毎年7月に開催。関東鉄道常総線水海道駅近くの中心市街地のみこしや山車が多数集まります。



### ●石下祇園まつり

毎年7月、石下地区中心市街地の目抜き通りで開かれます。みこしや山車が多数繰り出す迫力あるまつり。

①市内の最近の映画・ドラマなどの撮影数は年間約100本で、県内ロケの約4分の1を占めます。②圏央道「つくば中央ICー境古河IC」間は2016(平成28)年度開通予定。③市内を走る関東鉄道常総線。④坂手町の「染色村」では、染色家たちが友禅染や小紋染などの技法を用い、個性ある着物やインテリアなどを製作しています。ここで生み出された作品は「水海道染色村・きぬの染」と名付けられ、県の郷土工芸品に指定されています。





# 市民と歩む まちづくり

コミュニティ活動 [まちづくり推進力の強化]

## ●ふるさとの秋まつり

水海道あすなるの里（大塚戸町）で毎年開かれる秋恒例の「ふるさとの秋まつり」には、家族連れなどの市民が繰り出し、農産物直売会やバンド演奏など多彩な催しを楽しんでいます。







## 情報の交流と共有化をすすめ、 市民満足度の高い行政、地域協働のまちへ

市民協働のまちづくりを推進するため、本市では市民が市政に参画する機会を積極的に創出してきました。今後さらに広報・広聴の機会を拡大しながら多くの市民の方と直接話し合う機会の充実を図り、これまで以上に市民ニーズを的確に把握して施策に反映していくことが必要です。「市民協働スタートブック」に基づき、市民が行政のパートナーとして主体的にまちづくりに参画し、行政にはない多様性・柔軟性・先駆性・専門性な

どの特性をいかした公共サービスの提供を可能にする体制の確立を目指します。

また本市は県内で2番目に外国人の人口が多く、ブラジル人がその過半数を占めています。そのため市役所窓口でのポルトガル語対応をはじめ、文書・ホームページの多言語化、小・中学校への教育補助員の配置なども行っています。今後さらに活動を広め、国際化に対応するまちづくりを強化します。



市民と歩むまちづくり



● **筑波大学との官学連携**  
2012(平成24)年に筑波大と官学連携の協定を締結、幅広い分野で連携・協力を進めています。



● **行政サービスの向上**  
市では申請や手続きの簡素化・待ち時間の短縮など市民目線に立ったサービスの向上を図っています。

①市では、まちづくりを支える基礎となるコミュニティ活動の活性化のための支援を行っています。写真は将門まつり。②市民文化祭の市民音楽会で美しい歌声を披露する市民。③本市のPRのため各種イベントで活躍する本市のマスコットキャラクター「千姫ちゃま」と観光大使「千姫さま」。